



先端技術などを使ったアイデアで地域をより良くすることができる若い人材を育てる始動人Jr.キャンプ(県主催)が1~3月、前橋市の上毛新聞社などで行われた。参加した中高生22人は人工知能(AI)やデジタルツールを学ぶとともに、地域の社会課題を探り解決策を提案。自ら考え行動するこの大切な、難しさ、楽しさを体験した6日間だった。

キャンプは10年後の社会で主役になる子どもたちのことを考えて企画。変化の激しい時代に求められる自由な発想や、未来を切り開く力を養うことを目指した。まず学んだのが、これからの時代に必要とされる先端技術だ。群馬大学部附属病院先端医療開発センター長の浅尾高行教授や同大数理解析学教育研究センターの青木悠樹准教授が、医療や教育分野で活用されている技術を紹介。NTTコミュニケーション科決型学習(PBL)。地域や

学基礎研究所の杉山弘晃さんは雑談対話システムを紹介した。「自由な発想に触れるため、小中高生クリエイター育成事業 未踏シニア」に参加した滋賀県の高松3年生、伊藤拓聖さんと井上陽介さんの体験にも耳を傾けた。

キャンプの核心は課題解決には、現場の声を聞くことも必要だ。キャンプ中盤では、ビデオ会議システムを活用して、農業や介護福祉施設、教育関係者などにインタビュー、意見を交換した。

最終日は、最終日に行う成果発表会の仕上げ作業。県庁3階の官民共創スペース「NEXT-UP GEN(ネクスゲン)」で、グループごとにまとめた発表スライドを、キャンプのメイン講師を務めた高崎健康福祉大健康福祉学部の中村賢治講師らがチェックして改善点を指摘したほか、NTTデータ先端技術のAエンジニアで前橋出身の三橋拓也さんによる「ブラッシュアップ」を実施。技術的なアドバイスを受けた。

サポートしてきた大学生メンターは、参加者に激励メッセージを送った。

社会の課題を見つけて出し、解決策の提案に挑戦した。課題を探るのに役立つ地域経済分析システム「RESAS(リーサス)」について、経済産業省関東経済産業局の野谷真一 郎さんが紹介したほか、AIに不可欠な機械学習の仕組みを体験。その上で医療や教育、産業などのグループに分かれ、RESASでデータを調べたり、新聞やインターネットで情報を収集。メンターの大学生のサポートを受けたが、意見を押し合った。

さらには、現場の声を聞くことも必要だ。キャンプ中盤では、ビデオ会議システムを活用して、農業や介護福祉施設、教育関係者などにインタビュー、意見を交換した。

若者の就農者が少なく、農業者が減っていることを社会課題に挙げた。収入が安定しないこと、コミュニケーションの場がないことによる知識や情報不足、技術を取り入れるための費用負担がその背景だと分析した。

解決策として気象や鳥獣害情報、作物の生育状況の確認・予測、意見交換、選別作業の自動化といった機能を搭載した支援アプリを提案。センサーの設置などを農家に協力してもらうことで、実地に即したデータを安価に入手できる。また、野菜の生育を判別するアプリも試作した。

「ゲーム性を持たせることで、進捗が分かるだけでなく、飽きずに楽しく学習できるよう工夫した」とアピールした。

交通弱者や高齢者が受ける医療サービスの水準が低いことを課題に挙げた。医療格差を引き起こすのは医療従事者の不足、交通弱者の存在だと分析。解決策としてデリバリードローンの活用を提案した。人手不足の解消や交通弱者にも良質な医療を提供可能でコストも低いことなどをメリットとして挙げた。医療従事者の時短にもつながる。実用化には課題もあるが、自動運転技術の応用やアラート機能の搭載、群馬特有の空っ風の利用などで解決できるとした。

自ら考え動く楽しさ体験



【第3・4日】ビデオ会議システムでインタビュー



【第1日】「雑談対話システム」などの先端技術に触れた



【第5日】成果発表会に向けてブラッシュアップ



【第2日】地域経済分析システムの実習にも取り組んだ

「この経験を将来に」参加者

三木梨沙さん(高崎健康福祉大高崎高)は「みんなで社会課題を考え、深掘りし、意見を出し合い、形にすることができた」と、山越空さん(前橋高)は「自分では考えつかなかったことを、友人が付け足してくれたら、メンターに助けてもらった」と振り返った。

「この経験を将来に」参加者

中尾中(高崎)は「一つのテーマについて、他のメンバーと話をし、その中から新しい答えが生まれてくる。それが楽しかった」と話し、井上もえなさん(高崎経済大附属高)は「取上げた社会課題についてある程度知ってはいたが、キャンプを通して、それは上澄みだけの本質ではないと感じ、踏み込むことで、さらなる課題に気がつく。これからどうしていくべきなのか明確になった。将来に生かしたい」と力を込めた。

「この経験を将来に」参加者

依田莉李花さん(共愛学園高)は「学校でITについて学んだけれど、それを社会課題の解決に結び付けることはなかった。勉強になった」と話。

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

中村賢治(メイン講師)は「課題解決型学習(PBL)は課題や解決策、答えを自分で考える学習、解決法の一つです。皆さんが取り組んだのは、システム開発で「超上流工程」に相当するもの。企業なら経営者の仕事を体験したことに

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

これからの介護と私たち

チーム名: 期末(無事)終了



【メンバー】江原匠(高崎健康福祉大高崎高) 桜田雛子(藤岡中央高) 三木梨沙(高崎健康福祉大高崎高)

【メンター】渡辺由佳子(群馬大)

「老老介護」「認知介護」の増加や介護難民の増加などを社会課題と捉えた。要因として考えられるのが人材不足。少子化により高齢者が増え、相対的に人手不足になる。「RESAS」を活用してデータを比較・分析すると、介護職の採用難・離職率の高さ、給与、業務の負担の大きさなどが浮かび上がった。

解決策として提案したのが、介護ロボットと家事、仕事を一つにするアプリの作成だ。介護ロボットの管理や連携強化、介護データを一括管理する統合アプリを目指すとした。

教員の多忙について

チーム名: OB



【メンバー】井上もえな(高崎経済大附属高) 落合陽華里(吉岡中) 川田涼太郎(群馬高専) 中山紗菜(前橋東中)

【メンター】立川結佳(高崎経済大)

取上げた課題は「教員の多忙」。原因は教員不足による授業準備や部活動などの負担、長時間勤務と分析。解決するには教員増だけでなく、負担軽減が必要として「地域協力人材派遣システム」を提案した。

申し込みや審査、面接、データベースへの登録、条件に合う人材の派遣などを可能とするアプリで、人件費や教員の負担を軽減。定年退職者や障害者雇用の手助けも期待できる。「ITを活用して多忙化を緩和できれば、教員の魅力向上や教員不足の解消になり、教員を目指す人の増加も期待できる」と展望を語った。

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

ローコスト&ローリスクでハイテンション!!

チーム名: Agliberty



【メンバー】西尾長士(前橋七中) 平松桂(富岡高) 松村菜々美(富岡高) 茂木朋愛(前橋高)

【メンター】室田大輝(高崎健康福祉大)

若者の就農者が少なく、農業者が減っていることを社会課題に挙げた。収入が安定しないこと、コミュニケーションの場がないことによる知識や情報不足、技術を取り入れるための費用負担がその背景だと分析した。

解決策として気象や鳥獣害情報、作物の生育状況の確認・予測、意見交換、選別作業の自動化といった機能を搭載した支援アプリを提案。センサーの設置などを農家に協力してもらうことで、実地に即したデータを安価に入手できる。また、野菜の生育を判別するアプリも試作した。

最強のオンラインツール

チーム名: にぼし団



【メンバー】小松美羽(中央中等教育学校) 根岸陸人(桐生高) 矢島大暖(高崎中尾中)

【メンター】今泉妃南(高崎健康福祉大)

教育現場の社会課題に着目。①言葉の通じない児童②コロナ禍による部活動停滞③オンライン授業の弊害を解決するアプリを提案した。学習レベルを把握したり、生徒の進捗を確認できる「オンラインドリル」、反転授業や遠隔授業、自動検温、自動出欠確認、生徒・先生間と生徒間のチャット機能、居眠りなどの検知、群馬特有のイントネーションに対応した翻訳機能などを盛り込んだ。「ゲーム性を持たせることで、進捗が分かるだけでなく、飽きずに楽しく学習できるよう工夫した」とアピールした。

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

AI × 後継者育成!

チーム名: プロジェクトY



【メンバー】大木優依(前橋東中) 真船佑馬(市立太田高) 山越空(前橋高) 吉住翔乃介(藤岡中央高)

【メンター】城方尚樹(高崎経済大)

だるまの製造・販売業の後継者問題を社会課題とした。要因は、技術継承や開業後の顧客確保の難しさなどだと分析。解決策として職人の技術をAIで数値化し、弟子の熟練度を可視化する育成システムの構築を提案した。

熟練職人が手掛けただるまの画像と、絵付け体験などで作られただるまの画像を活用して、習熟した職人とそうでない人のだるまの差異を数値化。問題点を表示して、効率的な育成を支援する。AI活用をアピールすることでだるま産業のイメージ向上が可能になるとした。

田舎の医療格差をドローンで是正する!

チーム名: ネイティブくんまーず



【メンバー】青木遥聖(ぐんま国際アカデミー中等部) 岩瀬光(藤岡中央高) 高橋慶真(高崎高) 依田莉李花(共愛学園高)

【メンター】松崎秀信(群馬大)

交通弱者や高齢者が受ける医療サービスの水準が低いことを課題に挙げた。医療格差を引き起こすのは医療従事者の不足、交通弱者の存在だと分析。解決策としてデリバリードローンの活用を提案した。人手不足の解消や交通弱者にも良質な医療を提供可能でコストも低いことなどをメリットとして挙げた。医療従事者の時短にもつながる。実用化には課題もあるが、自動運転技術の応用やアラート機能の搭載、群馬特有の空っ風の利用などで解決できるとした。

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

「この経験を将来に」参加者

山本一太(群馬県知事)は「始動人」は、群馬県が進めている人材育成の教育イノベーションです。何が起るかわからない今の時代に求められるのは、自分で考え、他の人が目指していないような領域で動きだせる人材。それが

第1日から第5日までの学習プログラムや成果発表会の動画は始動人Jr.キャンプの特設サイトで視聴できます。

